



ぼくじゅう なに つく 墨汁は何から作られているの

にかわを ちゅうしん つく 中心に作られている

もともと、筆にふくませて書くために、墨をすずりですった液を墨汁といいます。今では、墨をすらずに、すぐ使えるように作った液を、墨汁というのがふつうです。

墨汁は、油煙、松煙、カーボンブラック（石油製品から作る「すす」）、にかわなどを原料として、作ります。

学校で書道の時間に使う墨汁は、正確にいうと、「書液」とよんでいるものです。墨汁は、にかわを中心にして作ってありますが、書液は、にかわの代わりに合成樹脂に、カーボンブラックや水を加えて作ったものです。

墨汁は、光沢があり、水に強い性質をもっています。一方、書液は、児童・生徒向けに作られたもので、かわきが速く、筆運びが軽く、書き味がさらっとして、なめらかです。また、書液は、筆のいたみが少ないとか、にじみが少ないなどの特色があります。

ちい こ ぼくじゅう の ばあい てあ 小さい子がまちがえて墨汁を飲んだ場合の手当て

小さい子がまちがえて、墨汁か書液を飲んだら、すぐに手当てをします。飲んだ量が少しなら、水か牛乳を飲ませ様子を見ます。もし、多めに飲んだようなら、水か牛乳を飲ませ、それをはき出させて、病院に連れていきます。水か牛乳を飲ませるのは、胃の中を洗い、また、胃の中のものをはき出させるためです。（監修・青木 国夫）

